

# 越境人

それぞれ国際貢献

9

岡山空港内にある救援物資備蓄センターには、県が購入したり県民から寄付された毛布や土のう袋など救援物資8品目約1万点が並ぶ。昨年5月の中国・四川大地震では、石井正弘知事から公設国際貢献大学校(新見市)のボランティア組織「ももたろう国際救援隊」に物資が引き渡され、被災地に運ばれた。

岡山空港内にある救援会一を設置。翌年3月、同会がまとめた報告書を基に、国際課の職員3人を中心に条例原案作りを取り組んだ。

制定当時、国際課長だった農林水産部次長の藤井伸さん(52)は「全国初ゆえに『産みの苦しみ』もあった。まず、国際貢献活動を定義する悩みから始まった」と振り返る。義務や罰則規定を定めた条例とは異なり、条例の柱は期待や理念だ。県内で活動する約110のNGOを分析し、国際貢献

県は04年4月、都道府県レベルでは全国初の国際貢献活動推進条例を制定した。石井知事が著作の中で、「国際貢献先進県」を目指す意向を明らかにしたのを発端に02年7月、明石康・元国連事務次長を会長とする「岡山発の国際貢献を考える

## 全国初の県国際貢献活動推進条例



中国・四川大地震の被災地支援のため、ももたろう国際救援隊に救援物資を渡す石井知事(左)＝県提供

前文と21条で構成する国際貢献先進県おかやまを表現することを宣言「とあり、国際貢献活動の定義や県の責務、市町村や県民の役割が定められている。

「国際協力」ではなく「国際貢献」とする意味や、なぜ条例なのかを問う意見が寄せられたという。

12月県議会会の一般質問では、自衛隊派遣の是非が議論されている状況下で条例制定を目指すタイミングについて問われ、石井知事が「3月から検討を進めており、具体的な義務を課するものではなく機運を醸成して協働によって国際貢献活動を推進するものである」と答える一幕もあった。

条例は今春で施行から5年を迎える。06年秋には県身体障害者福祉連合会などの団体や個人が、公設国際貢献大学校を通じてキルギス共和国に車いす67台を送るなど、条例が目指した団体同士の連携が広がりがつつある。

松尾茂樹国際課長(51)は「理念があるので支えになっている。今後は野菜や果樹の栽培指導など、農業や医療といった岡山の特性を生かした国際貢献を進めたい」と述べた。

活動を、技術支援▽自立支援▽国際救援▽人材の育成――の四つに定義した。さらに、作業中の03年から1カ月間で15件、「国

# 団体同士の連携広がる

【椋田佳代】  
おわり